

アプリのこと

平成31年1月25日発行
つどいの家・アプリ編集
〒982-0816
仙台市太白区山田本町 3-20
TEL 022-743-1882
FAX 022-743-1883

新年初アート!



2019年 今年もよろしくお祈りします!

今回の表紙はジャスミングループの齋藤和義さんです。アート活動を行っている様子をパシャリ。集中した眼差しで、水彩絵の具を用いて想いを画用紙に表現しています。一体どのような芸術作品が完成するのでしょうか? (記:八巻)

ひとりごと

～意思疎通～



新年のご挨拶が遅くなりましたが、本年もつどいの家・アプリをどうぞよろしくお願いいたします。

さて先日、終末期医療を考える講演会の開催記事が新聞に掲載されていました。「意思疎通ができないほど弱った患者に、家族の指示で胃ろうなどが施されるケースがある現状に、無理な治療はかえってお年寄りを苦しめているのではないかと疑問を投げかけている記事でした。

太白区山田本町は、30%を超える高齢化率になっています。アプリに通う利用者の平均年齢が28.7歳、最高齢でも50歳を超えた利用者もおりますが、介護保険のサービスを必要としている人はいません。高齢者の自立支援は、自己決定の尊重・残存能力の活用・生活の継続性という3つの基本理念を念頭に支援にあたりますが、現行の介護保険サービスで意思の疎通、つまり自己決定の尊重はなされているのでしょうか。

福祉の仕事に携わる人は、ひとつの分野だけではなく、児童・障害・高齢などの各分野を学び、その人にあった支援を目指すことが大切であると感じていますが、理念と現場との間に溝を感じる記事でした。福祉と医療の意思疎通がもっと必要ではないでしょうか。国はもっと現場をみてほしい。

保護者コラム

この原稿を書いているのは、2018年もあとわずかとなった某日。本当に月日が経つのが驚くほどあっという間で、その早さは年々加速度的に増していきます。

子どもの頃はあんなに一年が長かったのに…といつも不思議に感じますが、それは子どもにとっては多くのことが新しい経験で全てが新鮮であるから…すなわち発見が多いほど時間の経つのが遅く感じるらしいのです。確かに大人になると、大体のことは経験済みで想定内。でもこんな早さで時間が流れていくことに最近では恐ろしさすら感じてしまうのです。

そう！時間を長く感じるためには、新しい経験をすること！それが何より重要らしい！

新しいことをみつけてチャレンジする…いくつになってもそんなふうに過ごしていけたら素敵だなあと思います。

息子の時間はどんな早さで流れているのでしょうか。アプリでたくさんの経験をさせていただき、ゆっくりな時間を感じて過ごしてくれたら嬉しく思います。

私自身、2019年はあーなんて長い一年だったんだろうと思いつつ、年の瀬を迎えたいものです。

(記：橋本昂樹母)



サンタさんが今年も来てくれました！



「メリー・クリスマス！！」お待ちかねの掛け声と共に、今年もイオンスーパーセンター鉤取店さんより、サンタさん&トナカイさんが来所され、アプリ館内は一気にクリスマスモード！一人ひとりにいただいた素敵なプレゼントに胸を躍らせ、大盛り上がりの時間となりました。平成最後のクリスマス。皆さまはいかがお過ごしでしたか？イオンスーパーセンター鉤取店さん、ありがとうございました！（記：榊原）



USボーカル教室 Presents! クリスマスコンサート♪

まだまだ暑かった9月中旬、バザーの告知をさせていただく為に、活動でエフエムたいはくの生放送にでかけました。その際パーソナリティのゆっこ先生から、「良かったら、歌のボランティアをさせていただきませんか？」とありがたいお言葉をいただきました。お言葉に甘えて、二つ返事をお願いをして数カ月…。

サンタクロースの鈴の音が聞こえてきた12月上旬、ゆっこ先生が所属するUSボーカル教室のインストラクター、生徒の皆さんでクリスマスコンサートを開いていただきました。

クリスマスや冬をテーマとした曲を中心に、ゆっこ先生をはじめとしたインストラクター、日々練習を積み重ねている生徒さんたちが美声を響かせます♪聴いていた利用者の皆も音楽に合わせて身体を動かしたり、大きな声で一緒に歌ったり、うっとりとし聞き惚れたり、和やかな雰囲気の中、季節を感じられる素敵な時間を過ごすことができました。

これからもたくさん外出し、地域の方とアプリとのつながりを作っていけたらと思います。USボーカル教室の皆さま、また、いらして下さいね。ありがとうございました♪（記：設楽）



もりのみやこのふれあいコンサート



12月4日、イズミティ21で開催された仙台フィルハーモニー管弦楽団による「もりのみやこのふれあいコンサート」に11名で参加してきました。「もりのみやこのふれあいコンサート」は、障がいのある人にオーケストラの演奏の楽しさを伝えること、そして芸術文化活動を振興することを目的に開催しているコンサートです。

長時間椅子に座ることが苦手だったり、車椅子用のスペースが少なかったり、障がいのある人がコンサートに参加するとなると様々な難しさがあります。しかし、当日は車椅子用のスペースが広く取られており、車椅子を利用している人も数多く参加していました。また、演奏が始まると、皆目を輝かせながら様々な楽器の音に耳を傾けていました。音楽に合わせて身体を揺らす人、手拍子をしてリズムを取る人、ステージを指差し笑顔で音楽を聴いている人、演奏に合わせて一緒に曲を口ずさむ人等、皆それぞれの自由な楽しみ方で演奏を聴いていました。

今回は市内から多くの参加希望があり、その数は1400人以上の応募があったそうです。これからも障がいのある方が気軽に参加できるコンサートが増えていけばと思います。

(記：渡部)



リーの会の研修に参加してきました！



11月27日にリーの会（重症心身障がい児者の地域生活を進め支援する会）の施設長・職員合同研修会に参加してきました。当日は、宮城県内にある15事業所の職員が集い、宮城教育大学の菅井裕行先生を講師に迎え「障がいの重い方のコミュニケーション支援」というテーマで講演していただいたり、宮城県・仙台市の障害福祉課の方との行政懇談、8月末に行われた先進施設への視察研修の報告会が行われたりしました。



私は今回の研修の菅井先生の講演のなかで印象に残った言葉があります。それは「共同注意」です。共同注意とは、相手が興味を向けているものに一緒に視線を合わせて感じたことや状況を共有することです。日々の支援の中で、利用者と一緒に時間を過ごし、様々な体験・経験を通して何に興味があるのか、どんなふうに感じたかを共有・共感することが、その人のことを知ることにつながっていくということを改めて感じました。

今回の研修を通して感じたことなどを活かしながら、利用者一人ひとりにスポットライトをあてながら、どんなに重い障がいがあってもその人らしくいきいきと過ごすことができるよう支援にあたっていききたいと思います。

(記：佐藤（愛）)



ドキドキ☆劇団四季公演



ミントグループの佐藤あやさんは、日常的に酸素吸入や痰の吸引などの医療的ケアを必要としています。普段アプリにおいて長時間の外出の際、痰の吸引や体調の急変等に備え、常に看護師の同行が必要でした。

しかし、今回看護師の同行が難しく、どのようにしたら外出できるか各所と連携した結果、ご家族の方や痰の吸引ができるヘルパーが同行することで、久々に合同での外出活動に参加することができました！

それが11月29日、名取文化会館にて日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」主催によるファミリーミュージカル「王様の耳はロバの耳」のクリスマスチャリティー公演。このミュージカルは日産労働連組合の組合員が毎月積み立てた「福祉基金」を元に、1976年より始まり今年で43年目を迎えたそうです。

会場に着き、目にとまったのは大きなクリスマスツリー。さらに、出迎えてくれたサンタやトナカイに気持ちが高まります。これから始まるミュージカル、どんな話かな、とドキドキしているあやさん。ミュージカルの幕が開くと、会場を巻き込んでの歌やダンスに圧倒されっぱなし！！

楽しい雰囲気時間に時間を忘れ、素敵な歌とダンスに酔いしれました。気付くと約2時間のミュージカルはあっという間に終了してしまいました。最後に演者の方ともふれあい、満面の笑みが見られていたあやさん。また各所と協力し合いながら、外出活動に挑戦していきたいですね♪（記：高杉）



のんびり～温泉外出

先日、念願の温泉外出をしてきました。職員が利用者一人ひとりに寄り添い、湯加減や体調の変化等に注意しながら入浴。それぞれ無事に温泉を満喫しました。

「温泉に行きたいね」「温泉に行こうよ」ごくごく普通の会話に聞こえるかもしれませんが、しかし、温泉に出かけることが“特別な日”、“待ち遠しい日”である人もいます。その理由は様々。段差やスペースの広さ狭さなどの環境の問題、健康上への影響の懸念、麻痺や病などの身体的な理由など十人十色。実際温泉に外出してみると、足元の段差、床の濡れ具合による転倒等、注意が必要な点がたくさんあります。

ですが、最近では身体に障がいのある人も入浴できるよう、温泉用の車椅子が置いてあったり、段差が少なくなっていたりとバリアフリー化の進んだ温泉施設も増えてきています。

多くの方が普通と思えることは誰にとっても普通であって欲しい。特別な計画も予定もいらない日常であってほしいと思います。色々なことを思いつつ、ただただ皆と楽しんできた温泉外出の一日でした。（記：岡崎）



つどいの家・コペルへのご寄付のお願い



日頃より「社会福祉法人つどいの家」及び「つどいの家・コペル」の運営にご協力をいただき、誠にありがとうございます。お陰様で「つどいの家・コペル」が若林区上飯田の地に開設してから17年目を迎えることができました。現在、コペルは大きな課題に直面しています。開設から17年が経過し、建物の老朽化に伴い大きな修繕を必要としているのです。約2,500万円の費用が必要になります。「つどいの家・コペル」が歩み続けるためには資金が必要になります。重いしょうがいのある方々が地域で生活しつづけること、そこに人々の交流が生まれること…想いに共感いただける方は是非「つどいの家・コペル」の運営にご協力ください。

***つどいの家・コペルへの寄付は、確定申告によって所得税法上の寄付金控除が受けられます。**

領収書の発行が必要になりますので、控除を受ける際は入金前に必ず以下の連絡先にお問い合わせください。

【ご寄付振込先口座】

七十七銀行 沖野支店 普通 5340144

社会福祉法人つどいの家 つどいの家コペル(1) 理事長 下郡山和子

ご連絡・お問合せは・・・つどいの家・コペル(福地・阿部・鈴木)

〒984-0838 仙台市若林区上飯田1丁目17-58

TEL: 022(781)1571 FAX: 022(781)1573

e-mail: s-fukuchi@tsudoinoie.or.jp

編集後記

明けましておめでとうございます。早いもので2019年になりました。謹賀新年
私事ですがこの度縁があり12月に入籍し、苗字が蜂谷から渡部に変わりました。2019年は私にとって節目の年となり、今まで以上に様々なことを頑張っていこうと思います。まだまだ寒い日が続きますが、体調に気を付けながら利用者の皆と活動していきたいです。(記: 渡部)